

**令和7年度 農山漁村振興交付金（地域資源活用価値創出対策）
（地域資源活用価値創出推進事業（地域活性化型）のうち農山漁村関わり創出事業）
事業実施主体 評価一覧**

1. 事業評価の実施

令和7年度に実施された「農山漁村振興交付金（地域資源活用価値創出対策）（地域資源活用価値創出推進事業（地域活性化型）のうち農山漁村関わり創出事業）」の事業について、農山漁村振興交付金（地域資源活用価値創出対策（地域活性化型）実施要領（令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知）別記1の第5の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

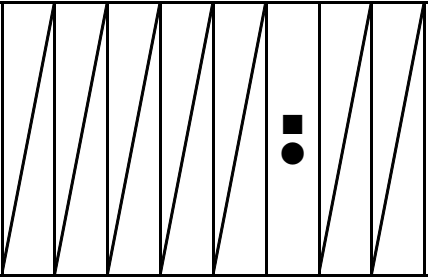
2. 事業評価結果の総括

令和7年度に交付金事業を実施した農山漁村関わり創出事業の3事業実施主体について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる事業実施主体が3つの評価結果となった。

3. 各事業実施主体の評価結果

3件

メニュー	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9		
農山漁村体験研修の実施	株式会社 和郷					●	■ ●			A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA判定となっているため、総合的評価をA評価とする。 新規就農に至るステップを把握できる「総合就農プラットフォーム」により、講座から実地研修、アフターフォローまで継続的な指導体制を構築し、参加者が農業や地域との関わりを学ぶことができている。受入地域の拡大、研修内容の高度化、自走化に向けた検証を進めるなど、事業の発展性と持続可能性の向上に寄与した成果が認められる。 今後は、自走化に向けた収益モデルや運営体制の確立を進めるとともに、研修から就農・就業への移行実績を積み重ね、事業効果のさらなる向上と他地域への展開につなげていくことを期待したい。
農山漁村体験研修の実施	特定非営利活動法人 G-net					●	■ ●			A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA判定となっているため、総合的評価をA評価とする。 大手企業から参加者を募り、越境形式による体験学習を行うことにより、参加者や企業と地域間に新たな関わりが構築されている。 次年度は、企業や地域の関わり体制を整え、自走できる仕組みづくりの構築に期待したい。

農村プロデューサー養成講座の実施	株式会社 マイナビ		A	①取組の実施状況がA評価、②事業実績がA評価、③事業実施体制がA評価であり、全てA判定となっているため、総合的評価をA評価とする。 入門コース受講者数は目標値を下回ったものの、入門コースと実践コースを分けて実施することで、受講者の活動段階や目的に応じた学びの機会を提供できた点は評価できる。今後は新たな受講層の掘り起こしを進めるとともに、受講生が研修で得た知識やネットワークを活かし、地域課題の解決や地域活性化に向けた主体的な取組を展開することを期待したい。
------------------	--------------	--	---	--

(注1)「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)
(注2)「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調 評価対象外・・・評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

「農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)」別記1の第5の2の規定に基づき、有識者で構成する第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会分科会」(以下、「評価委員会分科会」という。)を設置し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会分科会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長: 大江靖雄(東京農業大学客員教授)
委 員: 落合基継(早稲田大学教授)、嵩和雄(國學院大學准教授)、金子洋二(大正大学准教授)

【令和8年度評価委員会の開催概要】

評価委員会分科会
1 日 時: 令和8年8月17日(月) 14:00～15:10 2 場 所: 農林水産省農村振興局第5会議室 3 議事概要 ① 令和8年度評価対象事業の評価方法について 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和8年度評価対象事業の取組状況及び評価について 令和7年度に事業を実施した3実施主体の取組概要及び評価案に関して説明し、質疑応答を行った。 4 主な意見 ・「農山漁村体験研修の実施」は、事業者が今後自立的に事業を継続していく上で、企業側がどのような考えで社員を研修に送り出しているのか考えを把握することが重要。 ・「農村プロデューサー養成講座の実施」は、目標値の設定が過大とならないようによく検討すべき。